

Shu Ogawara selection of 1930's: Evening scene in Nezu, Tokyo

小川原脩セレクション

根津夕景—1930's

2017.4.22 Sat—7.9 Sun

開館時間／9:00～17:00（入館は16:30まで） 休館日／毎週火曜日

観覧料／一般500（400）円、高校生300（200）円、小中学生100（50）円（ ）内は10人以上の団体料金

後援／北海道新聞社倶知安支局

小川原脩記念美術館

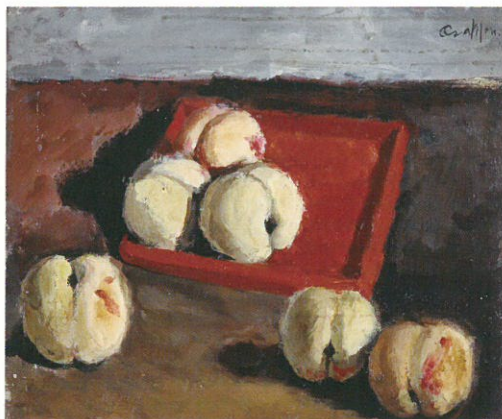
〒044-0006 北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1 (0136-21-4141)
<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>



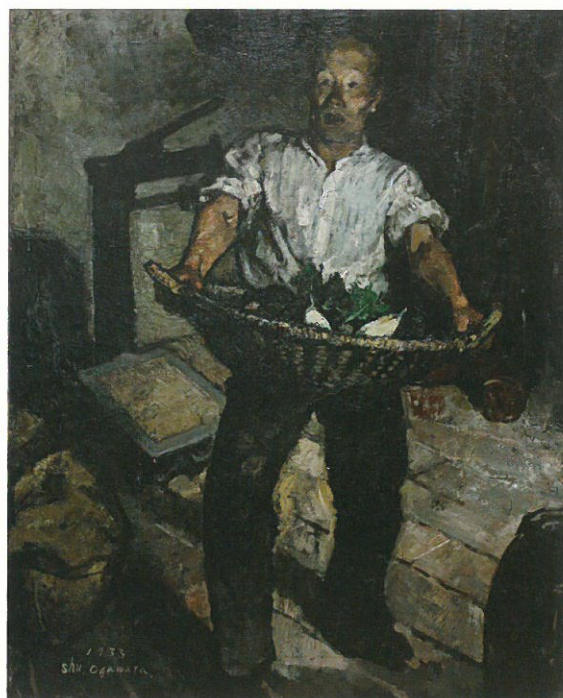
1930年代のはじめ、大正リベラリズムの空気感が色濃く残る昭和初期の東京。小川原脩は下町・根津八重垣町に下宿し、自由闊達な空気を吸いながら上野の東京美術学校（現在の東京藝術大学）で油彩画を学びました。本展では1930年代の小川原作品に注目し、1929年の石膏スケッチからはじまり、フォーヴィズム（野獣主義）の影響を受けながらリアリズム（写実主義）を追求した美校時代の秀作、そして30年代後半のシュルレアリスム（超現実主義）との出会いに至るまでをクローズアップします。また、昨年修復が行われた「納屋（1933年）」を修復後はじめて展示いたします。



石膏デッサン 1929年



静物 1930年



納屋 1933年



波濤B 1932年



風景 1934年



静物 1935年



婦人像 1935年



闘牛 1937年頃



小川原脩
1911-2002

北海道・倶知安町生まれ。東京美術学校（現・東京藝術大学）西洋画科卒業。
美術学校在学中に「納屋」（1933年）が帝展に入選。美術学校卒業後、福沢一郎らと出会い「エコール・ド・東京」「創紀美術協会」「美術文化協会」などの結成に参加。シュルレアリスム絵画への道を歩んだが、軍の規制が厳しくなり断念。後に、軍の命により戦争記録画を制作。
戦後は郷里・倶知安に戻り、岩船修三、木田金次郎らと「全道美術協会（全道展）」の創立に参加。
1958年、野本醇、因藤壽、穂井田日出磨らと「麓彩会」を創立。
1975年、北海道文化賞受賞。1994年、北海道開発功労賞、この年小川原脩画集を出版（共同文化社）。
倶知安町に定住してから60数年もの間、遥かなるイメージを求め続けた。70歳を目前にして訪れた中国、チベット、インドで創作への新境地を拓いた。

●同時開催

小川原脩展『馬・犬・おおはくちょう』

4月22日（土）～7月9日（日）

●開催期間中のイベント

アート・トーク

『帰ってきた小川原脩 よみがえる〈納屋〉』

4月22日（土）14:00～14:30 講師：沼田絵美（当館学芸員）

会場：当館展示室とロビー 参加無料

造形活動ワークショップ

『むつ先生と絵あそびしよう!』

5月13日（土）10:30～15:30 ※時間内にいつでも参加できます。

講師：宮崎むつ（美術家） 会場：当館ロビー 参加無料・申込み不要

道新ミュージアム・コンサート

『羊蹄山麓～縄文の響き』

5月20日（土）11:00～

出演：DJEMP（茂呂剛伸・縄文太鼓・ジャンベ、福田ハジメ：ピアノ）

会場：当館ロビー 参加無料・申込み不要

主催：北海道新聞社倶知安支局・小川原脩記念美術館



小川原脩記念美術館
Shu Ogawara Museum of Art

〒044-0006 北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1 (0136-21-4141)
<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>